

主 題：
**命の木としてのキリストを
享受する道を取る**

標 語

命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです。

創世記第2章9節の二本の木(命の木と善悪知識の木)は、二つの原則(命の原則と正しいか間違っているかの原則)を表します。

主の回復は、初めの愛、すなわち最上の愛をもって主イエスを愛することの回復であり、また主イエスを命の木として食べることの回復であり、キリストの有機的なからだを建造するためです。それは、神の永遠のエコノミーの目標としての新エルサレムを建造することです。

命の木であるキリストの複製として、わたしたち、キリストにある信者たち、また神の子供たちは、永遠の命を持っていて、永遠の命を経験することができるだけでなく、この命をキリストのからだの他の肢体に供給することができます。

導入：
命の木としてのキリストを享受する道を取る

リー兄弟からの極めて重要な交わり

「命の木は、人に命を分け与えまた人を喜ばせ満足させるキリストを予表します」
——「創世記ライフスタディ (1)」、第 11 編。

「わたしたちが必要とする一つの事は、主を命の木として享受することです」——
「命の木」、第 2 章。

「1943 年 5 月……わたしは深刻な結核に感染しました。……わたしは二年半のわたしの病の期間に、命の木を見ました。その二年半にわたしは、主の回復において、また主の働きにおいて、わたしたちが命に欠けていることを見ました。あらゆる種類の問題は、それが何であっても、命の不足の結果です。わたしはこのことを見た時、非常に後悔し、主の御前で多く告白し、徹底的な悔い改めを持ち、また主の御前で多くの対処を持ちました。……命の木についてのメッセージは南京において、多くの聖徒たちを救い、また多くの兄弟姉妹を解放しました。上海に在る召会における四年間の騒動のゆえに、聖徒たちは長年にわたって落胆し、意気消沈して、何もすることができませんでした。これらのメッセージは彼らの霊を解放し、彼らの心を照らしました。……主に感謝します。命の木についてのメッセージを通して、上海に在る召会はいやされました。……命の木についてのメッセージは、上海に在る召会の復興のために基礎を据えました」——ウイットネス・リー全集、1981 年、第 2 巻(上)、「主の回復の歴史と啓示」、第 8 編。

「命の木を食べること、すなわち、キリストをわたしたちの命の供給として享受することは、召会生活の主要な事柄であるべきです」——啓 2:7、フットノート 6、第 4 段落。

「悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ享受しないことです。……彼らは多くの事を行ないますが、来て主と接触し、彼を取り、彼を受け、彼を味わい、彼を享受することをしません。神の目に、これほど邪悪なことはありません」——イザヤ 57:20、フットノート 1。

人に対する神の意図は、ご自身を命の木として人に与えて、人に享受させることでした。「神がわたしたちに彼を享受してもらいたいことと、神がわたしたちに彼

のために何も行なってもらいたくないことを見ることは、クリスチャン生活が享受の事柄であることを見ることです。……もしわたしたちの観念が変えられて、これら二つの要点を見るなら、わたしたちが神を享受する生活をするのは容易でしょう」——「命の木と善悪知識の木のビジョン」、第5章。

「もしわたしたちが神を享受する道を取りたいなら、観念を変えなければなりません。……もしわたしたちが神を享受する実際の中へと入りたいなら、支配するビジョンを見なければなりません。……わたしが四十歳になってはじめて、主はわたしに彼を享受する道を啓示してくださいました。わたしは自分の二十年間の時間と労力の大部分が無駄であったことに失望しました。わたしの祈りの大部分は価値がなく、聖書や他の霊的書物を読むのに費やした時間も価値がありませんでした。この時わたしは、わたしたちの働きの道が間違っており、またわたしたちの霊的な追求の道も間違っていたことに気づきました。……間違った道を取ることから大きな損害を被ったので、わたしは他の人たちに同じ間違いを繰り返してもらいたくありません。わたしが望むのは、他の人たちが神を享受する道を取ることができることです。わたしは聖徒たちにもはやこれ以上、間違った道を取らないように懇願します。わたしたちは以前のわたしたちの追求の道を考慮すべきです。わたしたちは観念において徹底的な転換を持たなければなりません。わたしたちは支配するビジョンを持つ必要があります」——「命の木と善悪知識の木のビジョン」、第5章。

命の木としてのキリストを享受する道を取って、

神の永遠のエコノミーを完成する

聖書：創 2:7-9. 啓 2:7. 22:14.

ヨハネ 1:4. 14:6 前半. 10:10 後半. 6:35, 57, 63

I. わたしたちは創世記第2章で、人の前にある二つの選択を見ます。それは命の木と善悪知識の木です——創 2:7-9：

- A. 二本の木は、この宇宙に二つの意志、二つの源、二つの可能性があり、人に自由意志をもって選ばせることを見せています——参照、申 30:19-20。
- B. 命の木が表徴しているのは、三一の神の具体化であるキリストが、食物の形で人の命であるということです。それは、人が彼を享受し、彼をもって構成されて、彼の栄光、彼の団体的な表現となり、こうして神の永遠のエコノミーにしたがって神の当初の意図を完成するためです——創 1:26. イザヤ 43:7. 創 2:9. 啓 2:7. 22:14. ヨハネ 1:4. 14:6 前半. 10:10 後半. 6:35, 57, 63. 啓 21:10-11. 参照、4:3：
1. 命の木、神の木、神・木は、宇宙の中心です。
 2. 旧約は命の木で始まり（創 2:9）、新約は命の木で終わっています（啓 22:2, 14）。ですから、神が人の命となるという思想は、神聖な啓示全体を貫いています。
 3. 神が人を命の木の前に置いたことが示しているのは、人が神を有機的に食べ、新陳代謝的に吸収することによって神を人の命として受け入れるのを、神が願っているということです。それは神が人の存在の構成要素そのものとなるためです——ヨハネ 6:57, 63. エレミヤ 15:16. マタイ 4:4。
- C. 善悪知識の木は、人にとって死の源であるサタンを表徴します——ヘブル 2:14：
1. この木はまた、神以外のすべてのものを表徴します。神ご自身でないものは何であれ、善いことも、さらには聖書的なことや宗教的なことも含めて、こうかつな者であるサタンに利用されて、死を人にもたらす可能性があります——ヨハネ 5:39-40. II コリント 3:6 後半。
 2. 善と悪は二本の木で表徴されているのではなく、一本の木、すなわち第二の木で表徴されています。ですから、神以外の善いものを追い求めることは、サタンに属します。
 3. 真に善いのは神ご自身です。このゆえに、神を得ることは、真の善を得ることと等しいのです——マタイ 19:17 前半. マルコ 10:17-18. 詩

16:2。

D. 命の木は人を神に依存させますが（ヨハネ 15:5）、知識の木は人を神に敵対して反逆させ、神から独立させます（参照、創 3:5）：

1. 食べることは依存を示します。神がわたしたちの食物であることは、命の木で表徴され、わたしたちが絶えず神に依存しなければならないことを意味します。
2. 知識の木は独立を示します。神の目に、人の最初の罪また最大の罪は独立です。

E. 二本の木は、二つの路線、二つの道（命の道と死の道）をもたらし、それは全聖書を貫いて啓示録で終わっています：

1. 死は知識の木で始まり（創 2:17）、火の池で終わっています（啓 20:10, 14）。
2. 命は命の木で始まり、新エルサレム、すなわち命の水の都で終わっています——啓 22:1-2。

II. わたしたちは、命の木としてのキリストを享受することによって、命の道、命の路線にとどまり、命を維持して、命における神の建造のために、わたしたちの命を成長させなければなりません——ヨハネ 10:10 後半、啓 22:1-2、エペソ 4:16、2:21-22、コロサイ 2:19：

A. わたしたちが命の道にとどまるのは、命の原則にしたがって生活し奉仕することによるのであって、正しいか間違っているかの原則にしたがってではありません：

1. わたしたちは、正しいか間違っているかにしたがってではなく、霊の中の内なる命の感覚、すなわち命の導きにしたがって生活し、行動しなければなりません——ローマ 8:6、II コリント 2:13。
2. クリスマン生活の標準は、わたしたちの内側の内住するキリストの臨在です。それは、何が正しいか間違っているかの問題ではなく、わたしたちの内側の神聖な命が同意するかどうかの問題です——マタイ 17:3, 5, 8、参照、マラキ 2:15-16。

B. わたしたちが命の道にとどまるのは、主を極みまで愛し、人を引き寄せて主の後を走ることによります——マルコ 12:30、雅 1:4 前半：

1. わたしたちは、命の木としてのキリストを享受するために、絶えず彼に、「主イエスよ、わたしはあなたを愛します」と告げなければなりません。わたしたちが主イエスに対する燃える愛を持ち、すべての事で彼に第一位を与えるなら、彼であるすべてを享受します——啓 2:4-5, 7。
2. わたしたちは、命の木としてのキリストを享受するために、人々を彼に婚約させて、彼らを主イエスの尊いパーソンに対する真の評価、愛、享受の中へともたらさなければなりません——II コリント 11:2-3。

- C. わたしたちが命の道にとどまるのは、御言を祈り読みし、言葉を思い巡らす（口ずさむ）ことを通してイエスを食べることによってであり、またわたしたちの信仰の霊を活用することを通してその霊である言葉の人の中へと供給することによってです——ヨハネ 6:57, 63. エレミヤ 15:16. 詩 119:15. マタイ 4:4. 24:45. I コリント 2:4-5, 13 :
1. わたしたちは朝早く御言の中で彼を享受して毎日の新しい開始を持ち、多くの注意深い考慮をもって彼の言葉を受け入れなければなりません——詩 119:15, 147-148. 参照、レビ 11:3。
 2. わたしたちは時が良くても悪くても、日ごとにキリストをあらゆる種類の人々に語り（使徒 5:42. 8:4. II テモテ 4:2）、真剣に努めてどの集会でも語る習慣を建て上げなければなりません（I コリント 14:26, 4-5, 12, 31）。
- D. わたしたちが命の道にとどまるのは、命の霊の法則としての三一の神と、その神聖な能力を享受することによってです——ローマ 8:2. エレミヤ 32:39 :
1. わたしたちは、エデンの園の二本の木に、命、善、悪を見ます。わたしたちはエデンの園の縮図であり、わたしたちの霊の中に命の霊の法則、天然の独立した思いの中に善の法則、肉の中に悪の法則を持っています——ローマ 7:23. 8:2, 16。
 2. わたしたちは霊にしたがって歩き、また思いを霊に付けることによって、命の霊の法則に「スイッチを入れて」、三一の神を命として、わたしたちの三部分から成る存在の中へと分与していただかなければなりません——ローマ 8:2, 4, 6, 10-11。
- E. わたしたちが命の道にとどまるのは、復活の中に、キリストのからだである召会の実際の中に生きることによってです。キリストのからだである召会は、復活の命の木としての金の燭台で表徴されています。それは、わたしたちが神の栄光を帯びて、神の表現、すなわち、命の都、新エルサレムとなるためです——エペソ 1:22-23. 出 25:31-40. 啓 1:11-12. 21:10-11。
- Ⅲ. わたしたちが勝利者となる唯一の道は、命の木としてのキリストを食べて享受することによってです。それは、わたしたちが命において造り変えられて男の子となり、キリストの勝利を展覧して、花嫁となって、キリストを満足させることができるためです——啓 2:7, 17. 3:20-21. 12:5-12. 19:7-9. 22:2, 14。